

2019年度 東京都障害者虐待防止・権利擁護研修

# 「性的虐待及び心理的虐待、 放棄・放置の禁止」

東京都女性相談センター所長

三木 明香



# I 東京都女性相談センターについて

パープルリボンには、女性に対するあらゆる暴力をなくしていこうというメッセージが込められています



# 1 根拠法令等

- **東京都女性相談センター条例**(昭和52年東京都条例第14号)  
緊急の保護又は自立のための援助を必要とする女性及びその者の監護する児童に対し、生活各般の相談、指導、援助を行うことを目的に設置
- **売春防止法** (昭和31年5月24日制定・昭和32年4月1日施行)  
都道府県に「**婦人相談所**」を設置することを義務付け(法34条)  
「売春を行う者、斡旋する業者を罰する、売春を行うもの、行う恐れのある者の保護更生を目的」
- **配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律**(DV防止法)  
(平成13年4月13日制定・10月13日施行(直近改正25年))  
都道府県(婦人相談所その他適切な施設)に「**配偶者暴力相談支援センター**」を設置すること(法第3条)
- **人身取引対策行動計画** (平成16年12月策定、直近改訂26年12月)  
「婦人相談所」において人身取引被害女性の保護・援助を実施
- **ストーカー行為等の規制等に関する法律**(ストーカー規制法)  
(平成12年5月24日制定・25年改正)  
婦人相談所その他適切な施設による支援を行う(法第8条1項)



## 2 女性相談センターの業務内容

- 相談業務  
電話相談は匿名で受けられる  
その他来所・出張(婦人保護施設等へ出向いて)  
電話相談＝本所では平日午前9時から20時まで  
緊急の場合、夜間・土日祝日も対応
- 判定業務(医学的判定・心理学的判定)
- 一時保護業務(365日24時間対応。夜間休日は警察を通じて)
- 婦人保護施設(女性の自立を支援する入所施設)への入所決定(措置)
- 広報・啓発活動・研修等の実施、関係機関の視察(所在地や、秘密は保持)
- 配偶者暴力相談支援センター機能



# 3 一時保護

- ・対象者：緊急の保護又は自立のための援助を必要とする女性及びその者の監護する児童。  
単身女性だけでなく、同伴児童も対象。
- ・利用期間：おおむね2週間を目安
- ・本人が一時保護を希望していること(申請)が条件
- ・都内では区市町村の福祉事務所等に配置されている  
婦人相談員を通じて
- ・夜間休日の緊急保護は警察経由、  
翌開庁日に婦人相談員に繋ぐ



## 4 障害のある方の一時保護

- 精神疾患による精神保健福祉手帳所持者や自立支援医療対象者が多い
- 知的障害では、愛の手帳4級や、3級の方も見られる
- 施設がバリアフリーでないため、常時介護が必要な方の一時保護は難しいが
- 聴覚障害、軽度の歩行障害、認知症疑い等の方は、緊急性等を考慮して保護している。
- 手帳を取得していないが、簡易知能検査で境界知レベルの方も多い。(暴力被害でトラウマを抱えている方は数値が低く出ることもある。)

## Ⅱ 女性相談センター支援例の紹介

注：本人や関係者が特定されないよう、一部修正しています。

性暴力について、トラウマや抵抗感のある方は、注意してください。



# Ⅲ 課題や特徴





性的虐待を受けた経験、性被害を受けた経験を語るには、時間がかかり、語ることが難しい。まして、障害という課題を抱えていれば・・・

- 1 自分が困っていることを、言葉にすることが難しい。
- 2 自身の被害を理解できていないことも有る
- 3 いやなこと、居心地が悪いこと、拒否反応が見られると、そのことを相手に伝えることをせずに、その場から逃げてしまう。
  - ➡ 障害者施策から離れてしまう。このことが最も危険
- 4 相手との対等なコミュニケーションや信頼関係を築くのが難しい。
  - ➡ 支援者との関係構築・修復が難しい。次々と、関係する人を変える
- 5 性産業に誘う男性の言葉かけは優しく、頼れる人と受け止めてしまう。
  - ➡ 知的課題が無くても、若年女性が被害にあっている実態と共通
- 6 性産業は住まいを用意し、行き場のない女性がつながってしまう。
  - ➡ 性産業を、偽りのシェルターとせず、必要な方に公的支援を。



# **IV 障害を持ち、性的被害にあった 女性への対応と被害防止のために**



- 1 家族や周囲は、本人の障害を早めに発見し、本人の苦手なことを理解し、劣等感にしない支援を。
- 2 本人が、困っていることを言葉にすることができる環境、時間の準備を  
➡ ゆっくりでいいよ、聞いているよ、と受け止める環境
- 3 本人が、自ら伝えようと思う環境、時間の準備を  
➡ 聞いてもらえるんだ、話してみようと思うまで待つて欲しい
- 4 聞いてもらえる、と思う信頼関係の構築  
➡ 否定したり、自己責任を問わない。結論を急がず寄り添って
- 5 いやなことがあったら、いやだと言える自尊心の回復  
➡ あなたは悪くない。時間をかけた心理教育も必要
- 6 障害者施策による支援から離れることのないような粘り強い支援を  
➡ 障害福祉サービスに繋がっていて欲しい、なんとかつなぎとめてほしい。  
障害を持つ人のことを理解している方々こそが、聞ける、待てる、理解できる、掘り起こせる力がある。
- 7 障害者施策による支援が必要な人の掘り起こしと支援への確実なつなぎ  
➡ これは皆さんの仕事ではないかもしれないが、支援に漏れてきた人、知的な課題を持っているのに手帳による支援、教育の支援を受けられないで来た人がある、ということを心に留めていて欲しい



- 性的な被害にあったら、ケアには膨大な時間がかかる。過去のトラウマは繰り返し本人を精神的に不安定にする。少し良くなっても、また小さなきっかけで、同じような場面、同じような言葉でぶり返す。(フラッシュバック等)
- 知的な課題があったり、精神的な症状のため、言葉で苦しいとか辛いとか言えない、うまく伝えられない人は、通常とは違った表現をするかもしれない。  
怒り、ふさぎ込み、または腹痛などの身体症状。読み取ってほしい。
- 性被害は、本人の責任ではない。悪いのは加害者。  
どこでも誰でも、起こりうる。
- 簡単に性的な仕事、性風俗産業にアクセスできる。スマートフォンなどで求人サイト、街頭でのスカウト。  
うわべだけの優しい言葉が、寂しさや自己肯定感の低さを補うものであってはならない。

ご清聴いただき、ありがとうございました。

障害を持つ方への支援者の皆さんの力で、  
その人を理解し、その人の話を聞き取り、発信  
を見逃さない、そのことによって性被害を減らし、  
性的な仕事に就くことに向かわせないことができ  
ると思う。

皆さんと協力していきたい。



情報提供：性的被害にあった時の相談機関

特定非営利活動法人 **性暴力救援センター**

**(SARC(サーク)東京)**

東京都性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター

**24時間ホットライン**

**性暴力救援ダイヤルNaNa 03-5607-0799**